

概況総括：『引き続き好調を継続しているが、人手不足が深刻化している』

【調査概要】

1. 今期(平成 30 年 1-3 月期)の業況調査 DI12 項目では、プラス DI は、「売上高」22.4(前回 45.1)「受注単価販売価格」6.4(前回 5.6)、「収益状況」9.3(前回 19.2)、「資金繰り」8.7(前回 12.3)「取引条件」4.2(前回 3.2)「操業率」35.2(前回 34.3)、「受注残」6.2(前回 11.5)「生産設備」26.0(前回 27.3)、「来期受注」24.8(前回 23.1)、「来期採算」10.3(前回 10.5)「来期資金繰り」9.1(前回 10.1)の 11 項目(前回 11 項目)となった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの 9 項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」22.4(前回 45.1)は 3 期連続の増加傾向であったが、大雪の影響もあり今期は落ち着いている。
一方、「原材料単価」は▲62.2(前回▲57.0)とさらに上昇している。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」35.2(前回 34.3)、「受注残」6.2(前回 11.5)「生産設備」26.0(前回 27.3)と落ち着きを見せつつも忙しい状況が続いており、残業等での対応が増えている。引き続き人員確保が急務であり、ロボット等による生産設備の自動化・省力化対策が求められる。
3. 来期については、「来期受注」24.8(前回 23.1)、「来期採算」10.3(前回 10.5)、「来期資金繰り」9.1(前回 10.1)と引き続きの好調さが伺える。
4. 「企業経営上の悩み」については、前回調査で半数以上の企業が答えた「人材不足」が 54.5(前回 51.2)とさらにポイントを伸ばし、人手不足の深刻化が止まらない状況である。
5. 今回の調査では、大雪の影響もあり一服感があるものの、全ての項目が順調に推移しており、好調を継続している。工作機械や建設機械、半導体関連装置等が牽引している。
しかしながら、人手不足の深刻化が止まらず、現人員の育成を図るとともに、女性や高齢者、外国人実習生等の人手確保やロボット等の自動化・省力化設備の導入などが喫緊の課題となっており、企業業績に影響を及ぼしかねない状況となっている。
来期については、米国による鉄鋼の関税強化など保護主義的な政策の世界経済に及ぼす影響に留意する必要があるが、引き続き好調を継続すると考えられる。

